

## 「アフリカ人」として生き直す ジャマイカ、エチオピア・アフリカ黒人国際会議派

### ラスタファリアンにとっての救済と「アフリカ人」らしさについて

神本秀爾(京都大学大学院 人間・環境学研究所)

1930年にエチオピアで「三位一体」を意味するハイレ・セラシエ(幼名ラス・タファリ・マコネン)が皇帝に即位したことを受けて、彼を救世主として崇拝する信仰がラスタファリ運動である。運動はセラシエ崇拝に加えてエチオピア(アフリカ大陸)への帰還、黒人性の積極的肯定などの特徴をもっており、自らを「真のキリスト教」と称する。初期の信徒のほとんどは都市スラムに暮らすアフリカ系黒人の貧困層であったが、現在はミドルクラスからも信徒が出現し、その信仰は世界各地に越境しグローバル化を進めてもいる。

本発表では、ラスタファリアン集団のなかのひとつ、エチオピア・アフリカ黒人国際会議派(以下、会議派と略す)の信徒を対象として、「黒人」とであるという認識と救済がどのように結び付けられているのかを明らかにする。

会議派は、プリンス・エマニュエル(1909?-1994)によって始められ、1958年以降活発に活動を続けている集団であるが、エマニュエルが崇拝対象とされている点で他のラスタファリアン集団と大きく異なる。同宗派の目的は「救済とアフリカ帰還」である。帰還に関する同宗派の主張は、先祖が強制的に奴隷としてアフリカから連れてこられた以上、奴隷解放はアフリカ大陸への帰還をもって完了するのであり、現在も奴隷制度は継続しているというものである。この認識は英国政府やジャマイカ政府への反感・不信感ともつながっている。会議派において、ディアスポラとして生きることを余儀なくされている現状は、『出エジプト記』に見られるイスラエル人のエジプトへの捕囚と重ねて理解されている。会議派は、これまで国連や英国政府、アフリカ各国などに帰還に向けての援助を要求してきているが実現することはなく、1990年代に一部の信徒のアフリカ帰還こそ実現したものの、その後ほとんど進展は見られていない。1970年代後半以降、カリブ海地域を中心に海外に支部もでき、国内外からも信徒が訪れているということから、会議派の教え自体が普遍性を持つものであり、帰還という脱出とは逆のベクトルを持っていることも分かる。本発表で報告者は、会議派においてボボ・シャンティでの生活が「アフリカの再現」であり、信徒は「アフリカ人」とであると主張されることに注目し、会議派信徒にとっての救済と「アフリカ(人)」らしく生きる実践の関係について考察を加える。

会議派の教えでは、「R/X」という二項対立的な価値観があり、「R」には「黒人」が、「X」には「白人」が配置され、それぞれ「善/悪」「正/邪」のニュアンスをもって語られる。この思考法では、抑圧者としての黒人を生み出した植民地制度を正当化したものとして、ローマ・カトリックのキリスト教、植民地主義や帝国主義といったさまざまなイデオロギー、英国政府やジャマイカ政府という組織などが「X」に分類され、「R」には、ボボ・シャンティでの暮らしに凝縮されている、「真のキリスト教」として生活全般にわたる規範を含む「生き方」(a way of life)としての会議派ラスタファリアニズムが対置されている。

「生き方」としての会議派ラスタファリアニズムというのは、セラシエに加えてエマニュエルを崇拝し、エマニュエルが創造した、かつてアフリカが「キリスト教国」であった時代におこなわれていたという諸規範を遵守することで救済を願うべきという教えである。遵守されるべき規範としては、毛を剃らないことや、ターバンの着用、肉食の忌避といった、身体取り扱いにまつわる規範などがあげられる。会議派の教えとは、ほとんどの信徒にとって所与のものであるアフリカ的な「黒い身体」に、「真のアフリカ人の身体」としての新たな意味を与えるものなのである。とはいえ、根幹にあるのがセラシエやエマニュエルの崇拝である以上、白い肌の人間も彼らを崇拝する限りにおいて「アフリカ人」に分類され、排除の対象からは外される。

「真のキリスト教徒」としての信徒たちの生き方は、「想像された過去のアフリカ」と聖書という検証困難な二つの原点に立ち返ろうとするものである。エマニュエルのみが知りえた「アフリカの姿」「聖書の意味」を信じることによって、信徒たちは「アフリカ人」という聖化された存在として自らを再定位することが可能になり、救済への道筋をたどることが可能になるのである。この論理が、一見するとローカルな「黒人」の宗教運動である会議派ラスタファリアニズムの、普遍宗教としてのグローバル化を進めることを可能にしたのだと考えられる。

【 ジャマイカ、ラスタファリ運動(ラスタファリアニズム)、(ポスト)植民地、アフリカ性、生き方 】